

Contents

| | |
|---------------------------------|-----------|
| 編集方針 | 2 |
| 大和証券グループの概要 | 3 |
| 企業理念と経営ビジョン | 4 |
| 大和証券グループのCSR | 5 |
| □ 大和証券グループ CSR 重要課題 | 5 |
| □ CSR 重要課題の検証と社会的要請の変化への対応 | 5 |
| □ 大和証券グループのステークホルダー | 6 |
| □ ステークホルダーとのコミュニケーション | 6 |
| □ CSR 推進体制 | 7 |
| □ 健全なバリューチェーンの構築と維持 | 7 |
| □ 大和証券グループのCSRにおけるマテリアリティ(重要側面) | 8 |
| 経営層からのメッセージ | 9 |
| 事業活動を通じた取組み | 10 |
| 証券ビジネスの役割と社会的責任 | 11 |
| お客様への良質なサービスの提供 | 13 |
| 商品の開発と提供を通じた取組み | 17 |
| 金融・資本市場機能の維持発展のために | 21 |
| 経済・社会および投資情報についての分析・提言の発信 | 22 |
| 未来社会創造への支援 | 24 |
| 事業活動を支える取組み | 25 |
| コーポレート・ガバナンス | 26 |
| コンプライアンス | 29 |
| 人権教育・啓発への取組み | 32 |
| リスク管理 | 33 |
| IT戦略・システムリスク管理 | 37 |
| 環境への取組み | 38 |
| 株主・投資家の皆様とのかかわり | 41 |
| 社員とのかかわり | 43 |
| 社会とのかかわり | 48 |
| 社外からの評価 | 55 |
| GRI ガイドライン・ISO26000 内容索引 | 56 |
| CSR 関連データ集 | 64 |
| 用語集 | 72 |
| 第三者保証報告書 | 73 |

編集方針

大和証券グループでは、CSR活動をわかりやすく開示すること、および現状と課題を自己評価することを目的に、CSR活動に関する報告を2002年度から継続的に行なっています。

2015年度より、これまでの年次報告書(ディスクロージャー誌)を当グループの財務情報と非財務情報の統合報告書と位置付け、本報告書は統合報告書の別冊として、非財務情報に関し、より詳細な情報開示を行なうことを目的にしています。

本報告書は、PDF版のみとし、ISO26000、GRIサステナビリティ・レポート・ガイドラインを踏まえ網羅的な情報開示に努めました。GRIガイドラインに関しては、2014年度より第4版を参照し、マテリアリティを特定し、開示しています。(また、2015年度より、Sustainability Accounting Standards Board による非財務情報開示案のうち金融業界に関する案を参考にしています。)さらに、誌面の色使いについては、カラーユニバーサルデザインの考え方を参考とし、見やすさに配慮しました。

文中の下線が引いてある用語については、P72「用語集」をご参照ください。

対象読者

お客様、株主・投資家、社員、お取引先、地域社会をはじめISO26000が定義する大和証券グループの幅広いステークホルダーの皆様です。

報告対象範囲

原則として当社グループ主要会社。ただし全項目について、それら主要会社すべての情報を網羅しているわけではなく、各社の規模や事業内容などに応じて記載しています。数値データには、それぞれの対象範囲を明記しています。なお、「大和証券グループ」はグループ全体、「大和証券グループ本社」は株式会社大和証券グループ本社、「大和証券」は大和証券株式会社を指し、区別しています。

報告対象期間

2015年度(2015年4月～2016年3月)
一部、期間外の情報を含みます。

発行時期

2016年8月
(前回発行:2015年9月、次回発行予定:2017年8月)

お問い合わせ先

株式会社大和証券グループ本社 広報部 CSR課
電話番号 03-5555-1111 (代表) e - メールアドレス daiwacsr@daiwa.co.jp URL <http://www.daiwa-grp.jp/csr/>

参照ガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4)
ISO26000 中核主題
Sustainability Accounting Standards Board (SASB, 米国サステナビリティ会計基準審議会)セクター別ガイドライン
環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」

表紙の写真について

サステナブル(持続可能)な社会の実現への想いを込めて、表紙を当社グループ社員の子どもたちの笑顔で飾りました。彼ら・彼女らが大人になる頃の未来社会を幸せなものとするために、企業としての役割、大人としての責任を果たしていきます。